



秋空に響く 子どもたちの歓声

9/5 集まれ！あづみっ子まつり

子どもたちがさまざまな遊びを学び、交流するイベント「集まれ！あづみっ子まつり（市教育委員会主催）」が9月5日、豊科南部総合公園で行われ、約2千人が参加しました。この日は、凧作りやお手玉など昔ながらの遊びのコーナーのほか、バルーンアートやボールプールなどが設けられ、元気に遊ぶ子どもたちの声が、秋晴れの会場に響き渡っていました。家族で参加した二木優衣奈さん（穂高）は工作コーナーで折った紙飛行機を何度も飛ばし「ロケットみたいに遠くまで飛ぶよ！」とうれしそうに話していました



保護司の活動拠点が開所

10/1 更生保護サポートセンター開所式

犯罪や非行をした人の社会復帰を支援する保護司の活動拠点「安曇野地区更生保護サポートセンター」が、県安曇野庁舎内に設けられ、10月1日に開所式が行われました。県内で9カ所目となる同センターは、安曇野地区の保護司と対象者との面接や、新任保護司の研修場所などに活用されます。安曇野地区保護司会の中澤将文会長は「保護司同士の情報交換や、地域のボランティアなどとのつながりの場にしたい」と話しました。

工房30年の歩み ゆかりの作品展示

9/13 あづみ野ガラス工房30周年記念展

あづみ野ガラス工房（豊科南穂高）が設立30周年を迎え、記念展が9月15日から10月12日まで開催されました。会場には、工房の現役スタッフや卒房生などゆかりのある27人の作品約50点が展示されました。

開催に先立ち、9月13日には、関係者約70人が出席しプレオープン記念式典が行われました。工房の設立にも携わった伊藤 孚 多摩美術大学名誉教授は、あいさつで「世界に視点を合わせ、安曇野のガラスを発信してほしい」と工房の今後に期待を寄せました。

同工房は、昭和60年に旧豊科町と多摩美術大学（東京都）のクラフトデザイン研究会（当時）が提携し設立。ガラス造形作家を目指す若者が5年間在籍し、創作のほか工房の運営にも携わり、作家としての経験を積んでいます。

現在、工房には4人が在籍。在籍5年目で、リーダーの池内康祐さん（豊科高家）は「安曇野での生活で、作家として感性を磨き、技術が向上したと感じています。何より地元の人との交流を通じ、人として成長することができました」と話してくれました。



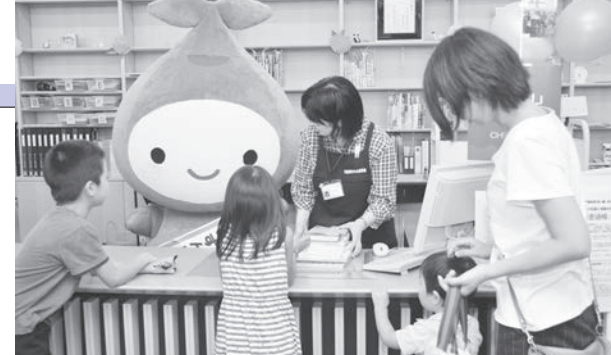
大糸線100周年記念列車が運行

9/26 豊科駅「大糸線100周年号」出発式

大糸線の開業100周年を記念した列車「大糸線100周年号」が9月26日、JR松本駅－信濃松川駅間で運行され、豊科駅で出発式が行われました。当日は、宮澤市長が一日駅長を務め、テープカットの後、記念列車に出発の合図を送りました。

ホームには豊科駅の職員手作りの記念列車のプレートも飾られ、スーパーあずさの旧型の車両を使用した記念列車が入線すると、集まった多くの鉄道ファンなどが写真を撮っていました。

豊科駅は1915年（大正4年）1月6日に開業し、同年11月2日には北松本駅－信濃常盤駅間が開通しました。地域の重要な公共交通機関として愛されてきた大糸線。近年は、外国人観光客も多く観光振興への役割も期待されています。

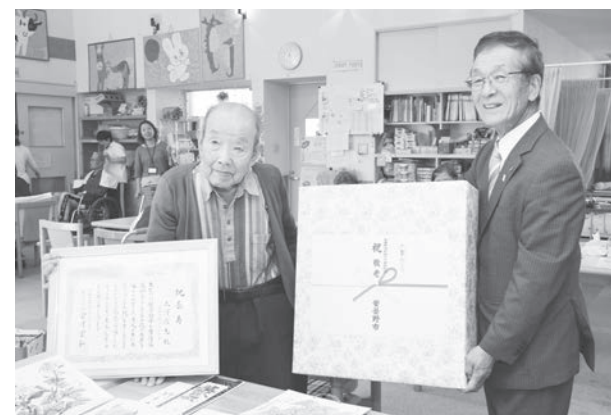


人と本をつなぐ、図書館を満喫

9/12・13 図書館フェスタ

図書館フェスタが9月12日から2日間、穂高交流学習センター「みらい」を主会場に行われ、コンサートや講演会、講座などさまざまな催しに多くの市民が訪れました。

12日には、図書館川柳入賞者の表彰式や一日中央図書館長の任命式が行われ、市の農産物応援キャラクター・あづみ～ずの「みずん」に橋渡教育長から任命書とたすきが手渡されました。図書館利用者カードケース作りを体験した川北桃子さん（穂高北小3年）は「とても簡単にできました。図書館はたくさん本があって楽しいです」と話してくれました。



長寿を祝い 記念の品贈る

9/15 市内最高齢者などに祝い品伝達

高齢者の長寿を祝うため9月15日、市内で男女の最高齢者となった大澤深志さん（三郷明盛・102歳）と望月志げみさん（穂高・105歳）を宮澤市長が訪問し、祝い品を手渡しました。俳句が趣味という大澤さんは、100歳を過ぎて俳句に添える絵にも挑戦し「何事も一生懸命に打ち込み、頭を使うことが大切」と長寿の秘訣を話してくれました。このほか本年度88歳を迎える男女583人と、100歳を迎える男女21人にも祝い品を贈り、長寿を祝いました。